

2013年11月26日

皆様へ

冬の気配が近づいて来ましたが、如何お過ごしでしょうか？

さて、6月末の会社の人事発令に伴い、国際事業センターから事業本部へ異動してこれまでとはまったく異なる業務に携わり、悪戦苦闘しながらなんとかやっています。異動に伴い中断していた「芝居」のほうですが、おかげさまで再開することになりました。今後の公演予定は下記のとおりです。是非ともご覧頂きたく、厚かましいお願いではありますがどうぞよろしくお願い致します。

(1) 演目：「めくじら尺」

作・演出：平石耕一（平石耕一事務所の本公演）

平石先生から出演のお誘いがあり、素人は小生他、数名です。

日時：2014年1月16日（木）～20日（月） 7回公演

会場：シアター1010（センジュ）内・ミニシアター

北千住駅下車・西口 丸井10階 アリーナ形式（4面客席）

物語：昭和30年。元旅館だった下宿屋兼、駄菓子屋兼、お好み焼き屋が舞台。大家さん夫婦、個性的な下宿人、テキヤの夫婦や韓国人教師など店に出入りする様々な人達の戦争に翻弄された生き様を描く物語。小生は、「イソ弁（居候弁護士）」から自分の法律事務所を持つことになったばかりの弁護士に扮して、いつものおバカな役とは一味違う（？）演技をご期待下さい！

(2) 演目：「冬物語」

作：シェイクスピア 演出：壤晴彦 翻訳：坪内逍遙

日時：2014年3月15日（土）、16日（日）公演時間・出演日は未定

会場：草月ホール 青山一丁目（或いは赤坂見付）下車

配役：ボヘミア王国のフロリゼル王子で、初めての正統派二枚目役（？）です。セリフの量がハンパじゃなくて、覚えられるか不安です。

まったく種類の違うお芝居ですので、両方ともよろしくお願い致します！

坂本秀昭

leonardo2001-jp@docomo.ne.jp

留守電 03-3427-6511

2014 年 1 月 16 日 (木) ~ 20 日 (月)

劇場 シアター^{センジュ}1010 内 [10 階・ミニシアター]

今回の作品は、怒りが重要な要素である。

怒りは、間尺に合わないときに生まれる。そこで、この『間尺』をどうにか取り入れたい。『めくじら』と『間尺』をどう関連付けるか？どうにかならないものか。こう言う悩みが、テーマを成長させる肥しにもなる。『そう言えば、くじら尺というものがあつたな』

私の世代はメートル法なので尺貫法を使わなかった。芝居の世界に入って使うようになったが。(くじら尺は、反物を測る和裁用の物差しで曲尺の1尺2寸5分を1尺にしたものだが) こどものころ長い物差しがあつた。竹でできたもので、今思えば、あれは3尺ではなかっただろうか。私には30センチ物差しが身近である。

ところでなぜ30センチ物差しだったのだろうか。きりのいい所で50センチにすればいいではないか。

おそらく1尺(およそ30センチ)を基にしたから30センチにしたのではないか。つまり尺貫法をすっきりと払拭できていない。法律で強制的にメートル法に変えても、前の時代を引きずってしまった。

1寸は3センチとしたが、3.0303センチなのだそう。ほんの少しずれがある。が、暮らしの中ではそんなに困らないから、そのくらいのずれは問題ないのだろう。それに本来目盛りというものは、意識されないものだ。もし意識されていたら、この世界は事実の氾濫で、きっと脳がパンクする。私の命は数分ともたないのではないだろうか。

実は、その目盛りのずれの感覚が目の前の事実をはっきりさせるのだ。思い込みがはっきりするからだ。それが間尺に合わないということだ。そして、怒りが生まれる。

「めくじら尺」についてのエッセイ集
『片いち柳』内『癪には尺を』より抜粋
(ご購入はネットまたは劇場にて)

照明 関 定己 美術 春山 金吾

結髪 佐藤 亭子 衣裳 NaRomi

音響 明星 隆志 票券 前田 美典

演出助手 富永 洋一

舞台監督 吾妻 和義

制作協力 石井 啓太 浜田 和美

声の出演 木村 方則 (平石耕一事務所)

制作 平石耕一事務所

作・演出
平石耕一

出 演

根岸光太郎・榎原 典子
(平石耕一事務所)

桑島 義明・高木 佑子
(平石耕一事務所) (二期会)

三國 志郎・鈴木 正昭
(平石耕一事務所) (劇団銅鑼)

田中 久也・吉村 洋子
(劇団昴)

坂本 秀昭・阿部 妙子

徳丸 滋美・畠田ハタコ

園田 洋子・高橋 美里

井原 幹雄
(劇団仲間)

<http://www.ne.jp/asahi/hira14/ko1/>

http://blogs.yahoo.co.jp/hira14_ko1

「パラシユート」「若楠繁る、お凜の」「よどむ水面にうつる」そして……

めくじら尺

めくじら尺

作・演出 平石 耕一



【物語】昭和30年頃の日本のどこか……

元旅館を利用して、下宿屋を営む夫妻がいた。ここには学生から社会人まで、職業も様々な男女が暮らす。一つの下宿屋を舞台に他人との関わりの中で、人は何を選び、何を掴んで行くのか？ 戦後10年が経ち、社会は目まぐるしく変化して……。

2014年

1月16日(木)～20日(月)

シアター1010内 [10階・ミニシアター]

公演スケジュール

16日(木)				19時
17日(金)		15時		19時
18日(土)	13時		17時	
19日(日)	14時	19日16:45～交流会		
20日(月)	14時			

※受付は開演の45分前

※開演30分前より、優先入場券をお持ちの方からのご入場
(受付を済ませたチケットレスの方も優先入場)

※当日清算券の方は開演15分前よりご入場

※事前にお知らせ(当日は不可)いただければ、ご年配の方、お身体のご不自由な方のための席を確保いたします。

※参加者募集！交流会にご参加いただける方は、1/10迄にお知らせ下さい。

優先入場券 4,000円

受付清算券 4,000円

お申込み後、チケットと代金振込用の口座番号をご郵送いたします。到着まで2～3日お待ち下さい。

当日は、開演30分前より優先的にご入場いただけます。※お申込みは1月8日迄

当日、開演10分前迄にご清算下さい。時間を過ぎますと、キャンセル扱いとさせていただきます。

当日は、開演15分前よりのご入場となります。※お申込みは1月13日迄

※お席が用意出来ない場合のみ、連絡させていただきます。

※電話での申込の場合、留守電にお客さまの電話番号をご伝言下さい。翌日以降に折返しお電話させていただきます。

チケットレス 3,800円

遠方来場感謝
チケットレス 3,000円

紙のチケットを発行しません。FAXまたは、Eメールでお申込み下さい。代金の振込先をお知らせします。入金確認後に「入場管理番号」を発行しますので、当日は受付にその番号をお申し出下さい。

普通列車で片道1800円以上の方のためにご用意しました。紙のチケットは発行しません。(詳細は右記のチケットレスの欄をご参照下さい)

※チケットレスのお申込みは12月末日迄です。

※電話でお申込みは出来ません。

※当日の受付完了後は、優先入場券同様、順次ご入場いただけます。

劇場までのアクセス [北千住駅] 西口改札、目の前のファッションビル [丸井の10階]、ロビーの奥

※北千住駅は数多くの列車が乗り入れていて便利。ただし、駅構内はその分、複雑です。初めてお越しになる方は余裕を持ってご来場いただきますようお願い申し上げます。

[めくじら尺] 専用FAX番号 03-6800-1481

フリガナ	
お名前	
ご住所(〒)	
お電話番号	FAX

チケット：2014年1月 日() 時開演

ご希望のチケット欄に枚数を記入

優先入場券	枚
当日清算券	枚
チケットレス	枚
遠方来場チケットレス	枚

当日清算以外の方は必ず選択

振込の支払い口座	
三菱東京UFJ銀行	
三井住友銀行	
郵便貯金銀行	

チケットのお申込み方法

①ネット

ホームページからリンクされている、チケット申込みフォームからお申込み下さい。簡単です！

または直接アクセス(携帯電話も可)

<http://form1.fc2.com/form/?id=293545>

②Eメール

件名に「チケット申込み」と入力の上、必要事項をお知らせ下さい。1. お名前、2. 観劇日と時間 3. チケットの種類、4. 枚数 5. ご住所(〒) 今回からヤフーメールを使っています。ご注意ください。

③電話

稽古中は平石耕一事務所は不在です。留守番電話にご伝言をお願いします。お名前と電話番号をいただければ、こちらからお電話させていただきます。ただし、1/13迄でそれ以降は、電話は通じません。

④FAX

送信面に注意して送信して下さい。チラシの表面が送信される事が時々あります。その際はこちらから連絡を取る事が出来ませんので、どうかご注意下さい

平石耕一事務所

☎ 049-298-6814

〒350-0219 埼玉県坂戸市片柳1660-8

<http://www.ne.jp/asahi/hira14/ko1/>

チケット申込専用のメール hira14_ko1@yahoo.co.jp

※電話は1/13迄繋がります。

それ以降、お問合せ等はメールかFAXをお願いします(毎朝7時頃にチェックしています。すぐには連絡が取れませんのでご了承下さい)

当日券完売の場合は、ブログに掲載します。

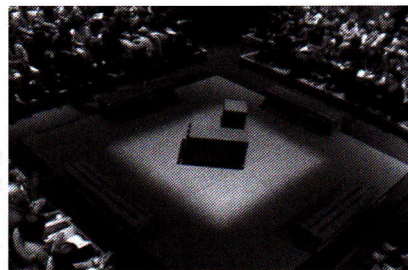
平石 耕一のアリーナ劇場

長く使わせて頂いていた劇場が劇場経営をやめてしまった事に機に、この劇場に出会い、この度、4回目の公演を迎えます。4面客席ならではの立体的な空間は、観客の皆様大変喜んで頂いています。

◆とにかく俳優が近くて圧倒される。その世界に飲み込まれる感じ。すごく興奮した。

◆兄弟喧嘩の乱闘場面で、思わず加勢してしまいそうな自分がいて必死に堪えた。いや～面白かった。

◆絶対に向い側の席では見る事の出来ない俳優の表情を間近に見た。得した！と思ったけど、あちら側に座ればまた違ったレアシーンを目撃したのだろう。そうか、これが四面の醍醐味！



平石耕一は文化庁在外研修員として2度、渡英。劇作家、演出家、制作者として世界で活躍するアラン・エイクボーンのもとで学ぶ。

この1010ミニシアターの公演は、彼の私設劇場スティーブン・ジョゼフ・シアター『四面客席、すり鉢状の空間』を模している。